

第1回 学校関係者評価委員会 (紙上提案)

令和3年9月9日(木)

- 1 学校関係者評価委員 中澤 弘 (教育振興会会長) 志村 成美(教育振興会副会長)
清水 龍二(教育振興会副会長) 戸澤 聡 (教育関係有識者)
勝上 誠 (上八田育成会会長) 竹山真由美(主任児童委員)
望月 一輝(保護者代表・PTA会長 学校関係者評価委員長)
小野 千恵 (保護者代表・PTA副会長)
- 学校側 望月 政幸 (校長) 矢崎 健 (教頭)
福井 初美 (教務主任) 三枝 秀明 (生徒指導主任)

2 学校側から提案された内容

- (1) 教職員自己評価 (教務主任) (2) 児童アンケート (生徒指導主任)
(3) 保護者アンケート (教頭) についての解説や考察

3 いただいた御意見

新型コロナウイルス感染症防止のため、紙上提案とし委員から御意見をいただいた。

※○……委員からの意見・感想 ☆……学校の考え

(1) 学校経営・運営について

- 児童や保護者が百田小の先生方と適切にコミュニケーションが持てていることが分かる。コミュニケーションは情報の伝達・連絡・通信の意だけでなく意志の疎通、心の通い合いということも示している。校長先生をはじめ教職員全員のチームワークで今後とも様々な困難を乗り越えていっていただきたい。
- 「児童アンケート」について、どの項目も肯定的な意見が多いのは先生方の教育活動への取組の結果が現れていると思う。
- 保護者アンケート「学校は保護者に教育目標や教育方針を伝えている」について
昨年、今年と学校通信の「共育」の内容は学校として児童にどのようなことを大切にしてほしいのか、どのように育ってほしいのかがとても分かりやすく表現されていると思う。
- 保護者アンケート「学校の教育活動について」
保護者は「見えないこと」「不透明なこと」にとっても大きな不安や不満を感じると思うので、必要な情報開示、学校開放を行うことで保護者の学校の教育活動への理解や協力が高まると感じた。
- ☆ 夏休み以降、再び新型コロナウイルス感染症が拡大したため今後の学校開放等については不透明な状態である。しかし、今年度は年度当初よりその時々々の段階でできる範囲での学校開放を行ったり、対話の機会を取ったり、情報発信を行ったりしてきた。保護者は大分満足していることや学校の様子や子供たちのことについて理解していることがアンケートからも読み取れる。今後感染症の状況次第ではあるが、できる限り保護者との連携を図っていききたい。また、学校における様々な活動中には子供たちとより多くコミュニケーションをとることはもちろんのこと、保護者とのより良い関係を築いていくことが子供たちとの関係づくりにも影響してくるので、両者とのより良い関係が作れるよう取組を行っていききたい。
- 「自己評価」の「2 教科等の指導の課題・改善案」の中に「気軽に授業を見合う機会を取りたい。」とあった。先生方が、一人でも多くの児童の「楽しい」「分かった」と感じる授業を目指している中で、授業を見合う環境づくりはとても重要であると感じた。授業を見る側と見られる側の双方の立場で発想の転換や発見が図れることが大きなメリットだと思う。見合う機会を取りたいとの声が教職員から上が

ったことはとても良い機会だと思う。

☆ 昨年・今年とコロナ感染症の影響で時間的な面でも制約があり、なかなか他の教員の授業を参観するという機会にも恵まれていない。2学期には研究授業も予定されているので、全職員の授業力向上の良い機会としたい。また、管理職による授業観察も活用していく。さらに、時間的に余裕がある場合には、学年内などでお互いの授業を観察し合い、授業力向上を図りたい。

○ 「自己評価」の「学校経営・学校運営」について

職員会議の進め方に課題があるように感じた。長引くと職員の意欲低下につながるので、

- ・開始時刻とともに終了時刻を明示する。
- ・事前に企画会議等で議題を整理し、協議事項と連絡事項に分ける。（時間配分をしておく）→資料に明示。
- ・資料は事前（前日以前）に配布しておき、会議当日は「質問」から入る。（口頭説明はしない）
- ・連絡事項も口頭説明はせず（資料に記入しておく）一括質問のみ受ける。
- ・それでも延びる場合は終了時刻で打ち切り、校長が今後の対応を指示する。
- ・共通理解のため職員会議は重要である。月1回の会議だけだと長くなるので、終礼等活用し分散して行うことも考えたい。

☆ 喫緊の課題ともなっている「働き方改革」を考える上で重要なことである。上記御意見の中には既に取り組んでいることもあるが、今後参考とさせていただきたいこともある。また、現在コロナの影響で、職員室の密を避けるため議題を精選してオンラインを活用したり紙上のみの提案を行ったりしているが、感染症収束後も活用し、職員の働き方の改善や効率的な学校運営に役立てていきたい。

(2) 生活について

○ 「児童アンケート」の「学校へ行くことが楽しい」について

D評価5. 2%が気になる。緊急性や重要性を学年だけで確認するのではなく、原因を探り全校職員で共有してほしい。

○ 「保護者アンケート」の「子どもの様子」について

C・D評価8. 2%については児童アンケート同様、原因を探り全教職員で対応を共有してほしい。

☆ 多くの児童が学校は楽しいと感じているものの、そう思っていない児童もいることは事実である。御意見にもあるが、原因を探ることは大切なことである。児童とのコミュニケーション、保護者との連携、日々の全職員による見守り、様々なアンケート調査等により原因の早期発見、早期対応に心がけ全校児童が楽しく学校生活を送れるようにしていきたい。

(3) 地域との連携について

○ 学校と地域の連携を高めるために「学校だより」を地域の回覧板に挟んだり、近隣の保育所や幼稚園に配ったりするのはどうだろうか。

○ コロナ禍の中、なかなか地域の行事ができないでいるが、地域としても子供たちの育成のためにできる限りのことは行いたいと思っている。今年の夏休みのラジオ体操には思ったより大勢の子供たちが参加してくれた。今後とも地域も学校と力を合わせて子供たちの育成に貢献していきたいと考えている。

☆ 地域との連携は大変重要である。地域の御理解や御支援があって、円滑な学校運営や教育活動が行われる。このような御意見をいただけることは本当にありがたい。

学校だよりの地域への配布については、自治会長さんたちと相談し決定していきたい。

今年度第1回目の学校関係者評価委員会は新型コロナウイルス感染症防止の観点から、紙上提案となった。本来であれば参集していただき御意見をいただきながら、原因究明や対応策等について細部に渡って話し合われるところであった。紙上提案となったものの学校運営をはじめ前向きで貴重な御意見をいただくことができ、今後の参考にすることができた。学校関係者評価委員の皆様对学校に対する温かいまなざしに感謝するとともに、今後とも御理解と御支援をお願いしたい。

記載責任者 学校関係者評価委員長（PTA会長） 望月 一輝